# ビーンズ通信 Vol.77

●発行日／2016年9月10日



●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/
E-mail info@beans-fukushima.or.jp


NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

# 子どもの貧困について

## 子どもの貧困率と相対的貧困率

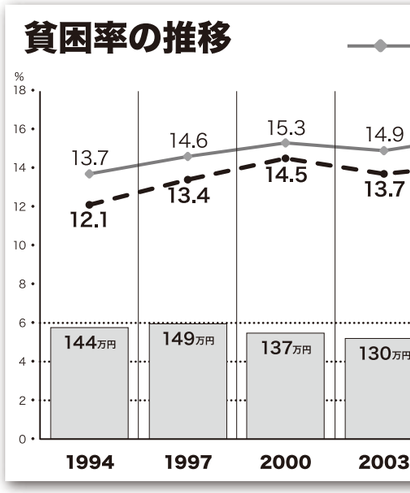
子どもの貧困は年々増加傾向にあり、2012年の厚生労働省の調査では18歳未満の子どもの貧困率は16.3%となっています。ここで言う貧困とは「相対的貧困」のことを指しています。食事も満足に食べることができず、住む場所もない等の命に関わるような「絶対的貧困」に対して、食事や住居等の生活の基礎の部分はある程度確保されているが、経済的な問題を始めとした様々な要因により教育・雇用・福祉等に対して滞りが発生してしまっている状態が「相対的貧困」と言われます。そのような状況で生きている子どもたちは必要なフォローが受けられず、多様な学びや体験等の機会も制限され、自身の可能性を拡げていくことが困難な状況に陥っている場合があります。「絶対的貧困」の場合はまずは食事や住居、医療等といった支援が優先的に必要となりますが、「相対的貧困」の場合、その原因が多様で複雑化しているため、個別に対応していくことが求められます。相対的貧困率は収入（税金・社会保険料等を除いた収入）がOECD（経済開発協力機構）の算定方法による基準（貧困線）に満たない者の割合を指します。2012年の厚生労働省の調査での貧困線は122万円でしたが、相対的貧困率は16.1%という結果が出ており、これはOECDに加盟する34か国の中でもかなり高い結果となってしまっています。また、相対的貧困の基準となる貧困線は近年減少傾向にあるにも関わらず、相対的貧困率は増加傾向となっており、日本の貧困問題が深刻化していることがわかります。

## 貧困家庭の子どもたちへの支援

現在、全国的に子ども食堂という取組みが始まっています。孤食や十分な食事が食べられない子どもたち等に無料もしくは安価で食事や居場所を提供しており、全国で300か所以上の子ども食堂があります。また、昨年度からは「生活困窮者自立支援制度」が開始され、その中では子どもの学習支援事業が貧困の連鎖を断ち切る重要な事業として位置付けられています。福島県内でも各地域で学習支援や子ども食堂といった活動が少しずつではありますが着実に増えてきています。

## 貧困家庭の子どもたちとビーンズふくしま

子どもの貧困と言う言葉は最近になってよくきかれるようになりましたが、当法人と貧困家庭の子どもたちとはフリースクールを開所した時から関わりがあり、その時から取り組まなければならない課題としてその解決方法を模索していました。当法人では、2012年に福島県から事業を受託したのを契機として貧困家庭の子どもたちへの支援を本格的に開始し、今年で5年目を迎えます。今年度は新たに福島県から委託を受け、さらに貧困家庭への子どもたちへの支援を拡充しています。生まれてきた環境に関係なくどの子どもたちも必要なフォローが受けられ、自分の望む将来に向かっていけるような社会を目指してこれからも活動を継続して行きたいと考えています。






## こちらフリースクールです。 子ども主体で作り上げたサマーキャンプ

今年もサマーキャンプの季節です。毎年、「どんなキャンプにしたい？」という子どもたちの思いを共有し、「場所をどうするか」「企画や食事はどうするか」「役割分担は？」など、準備段階から話し合い、子ども主体で作り上げるのがフリースクールのキャンプです。今年は、新しく入会した子どもも増え、初めてキャンプに参加するという子もたくさんいました。そこで、今年は「子ども個々の段階に合わせて役割分担をし、初めて参加する子は、キャンプで大切にしていることや、作り方、その楽しさを味わえ、経験者にも達成感を味わえるようにする。」という目標を立てて臨みました。準備段階では、経験者の子にキャンプ実行委員を担ってもらい、準備をどう進めれば初めての子も意見を出しやすく、考えやすくなるかをスタッフと考えてもらい、初めて参加するという子には、話し合いをどのような流れで、何を大切にしながら作っていくのかを丁寧に伝え、その司会を1人1回担ってもらい、キャンプを主体的に作るということを体験してもらいました。経験者の子どもたちは、スタッフも驚くほど、全体をまとめる力やプログラムを組み立てる力があり、率先してみんなを引っ張っていき、初めて参加する子も、先輩たちの背中を見ながら、その思いを受け継いでいるようでした。そして、準備の期間も楽しむことは忘れず、毎回ミーティングが笑顔で溢れていたのが印象的でした。キャンプ当日は、残念ながら台風の影響で、フリースクールでのお泊り会になってしまったのですが、子どもたちの中には確実に力が付いています。それを、これからの自信に変えていってもらえたらなと思っています。

## 新人紹介



毎日の勤務が母親修行でもあります。成長を実感しています。
福島県子どもの学習支援事業（県北）
大野　見和



趣味は映画観賞です。特に、洋画でアクションが大好きです。
福島県子どもの学習支援事業（県中）
星　要



毎日笑顔で、毎日元気に、子どもたちに寄り添っていきます。
福島県子どもの学習支援事業（県中）
武藤　奈々

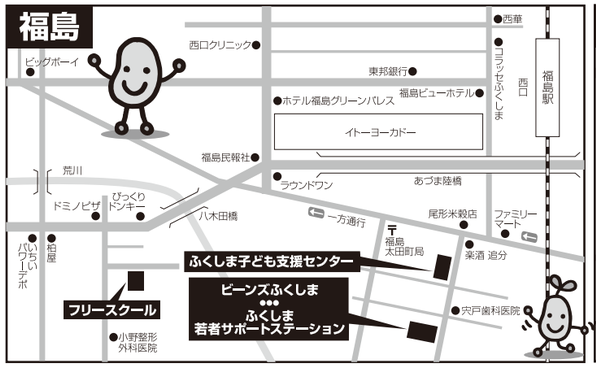
## これからの活動予定

**●親の会**
※不登校のお子さんがいらっしゃる保護者対象
**9月24日(土)**
**10:00～12:00**
**フリースクールにて**

**●フリースクール オープンハウス**
**11月23日(水)**
※詳細は同封チラシをご覧ください

## 編集後記

今年の夏も大変暑くて、気温が30度を超える日がたくさんあり、外出が億劫でした。事務所にいるとエアコンのおかげで快適なのですが、外に出たときにその気温差にくらくらしました。何とかバテずに夏を越せたと思っていますが、まだしばらくは油断できないお天気が続きそうです。さて、9月になり今年もあと3か月。年度でみるともう半年が経過。やり残したことはないか、考えながら過ごしていきたいところです。



●ビーンズふくしまのホームページ　こちらへアクセス ⟶ http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/

# ビーンズとしてのとりくみ

子どもの貧困対策支援事業は、2012年、県の委託事業「子どもの健全育成支援事業」として開始しました。本事業は、生活保護受給世帯の子どもたちに学習支援を提供し、子どもたちが高等学校へ進学し、将来は手に職をつけて貧困の連鎖をとめることを目的としていました。私たち、現場の支援員は、貧困家庭の子どもたちに学習支援を提供すべく家庭訪問を開始しました。

しかし、見えてきた子どもの背景は、ほぼ、どの家庭も地域から孤立し、学校へも行かず、健全な日常生活は破綻しているような状況でした。
自分の置かれている劣悪な環境に違和感を感じることもなく、生きるエネルギーは低下し、将来に希望を見出せず、リストカットを繰り返す子ども、乱れた性生活、親、またはその交際相手からの虐待、不登校、素行不良で警察が介入する子ども、精神疾患、発達障害、抱える問題はあまりにも複雑化していて、その問題を紐解いていくのは容易な事ではありませんでした。学習支援より以前に、子どもの健全な精神安定、基本的な日常生活の構築が最優先と考え、子どもの健全育成に関る支援全般の提供に今も力を注いでいます。

具体的には、通常の訪問型支援の中で、子どもの背景、主訴に沿った支援を提供すること、また、関っている子どもたちを集め、各種イベントを実施する集合型活動を行っています。訪問型支援と集合型活動は一体化していて両方の支援で見えた子どもの課題をそれぞれ反映させた支援の提供に繋げています。

それらと併行し、支援開始段階から、地域の各関係機関と連携し、情報提供、情報共有を適宜実施し、その家庭を丸ごと地域でサポートする体制整備を強化しています。これは、繰り返し起こる子どもの貧困問題を、地域で解決できるシステムを構築するために非常に有効な手段だと考えています。何度も何度も会議を重ね、その家庭を支援するために何が必要かを検討します。その地域にない資源は作ることから始めることもあります。こうして、複数の機関が関ることで、その家庭を丸ごと支援する体制が作り上げられていきます。しかし、複数の機関が協働することで、見解の違い等、様々な困難があります。それでも、私たち現場の支援員は、どんな時でも、ブレることなく子どもの意思を代弁し続けます。子どもの人権を守ることがソーシャルワークだと考えているからです。

日本の社会では、「貧困」=「絶対的貧困」と捉える風潮が未だ根強く、「相対的貧困」は「貧困」と捉えられにくい現状があるのも事実です。実際、私たちが関っている家庭も生活保護家庭、準要保護家庭です。しかし、日本の既存の制度で守られていれば安全で安心な将来が約束されているわけでは決してありません。子どもたちに必要なことは、安心と安全に守られて、将来に希望を見出せる力をつけていくことです。そのためには、しっかり子どもに寄り添い、子どもにとって信頼できる大人の力が必要不可欠です。それが出来た時、子どもは自分の意思で、元々持って生まれてきた、子どもならではの学ぶ意欲を十分に発揮してくれると信じています。

貧困の中で生きる子どもたちの現状をしっかり社会に発信していくことも、私たち現場の支援員に課せられた大きな課題だと感じています。貧困をその家庭の抱える問題と捉えるのではなく、社会全体の問題と捉え、その解決策を見出さなければなりません。

私たちが関っている、貧困家庭の子どもたちも、いつか、自分の置かれている現状に目を向け、周りに助けを求められる力をつけ、お腹がすいたら、今、活発な動きを見せている「子ども食堂」等に足を運び、お腹いっぱいご飯が食べられるようになってほしいと心から願っています。そうなるまで、私たち現場の支援員は、貧困家庭に訪問し続けたいと思います。

どうか皆さん、お時間があれば、ぜひ、貧困の中で精一杯、命を繋いでいる子どもたちの姿を見にいらしてください。

※本事業は、現在、ベネッセ子ども基金「経済的困難を抱える子どもたちの学習支援助成」を頂いて実施しています。

『フードバンク』の活動を展開されている「生活協同組合コープふくしま」さんから寄稿していただきました。

# すべての子どもが安心して遊び、学び、食べることができる環境を作る

### 「食べる」

「食べる」ということは生きる基本です。

「食べること」が「生き抜く力」の基盤になり、「食」の体験こそが健全な心身の育成にはとても重要だと思います。遊ぶ力、学ぶ力、人間関係を育む力を養う原動力なのです。

大人になるまでの間に数多くの「食べる」「食」の体験をすることがとても大切で、食の体験が不足したり、偏ってしまったりすると、元気な心身は育めず、健康の格差が生まれることになりかねません。「食」の環境は予想以上に重要なのです。

### 地域の大人がみんなで子どもたちを見守り育てていく

子どもの貧困率が過去最悪を更新する中、経済的な貧困だけではなく、愛情や心の貧困を招いています。

仕事で帰りの遅い親を待ちながら、お腹を空かせる子ども。夜ひとりで何かを食べて空腹をまぎらわしている子ども。子ども6人に一人がこの状況なのです。

地域の大人がみんなで子どもたちを見守り育てていく環境の整備を早急に行い、社会のつながりの貧困を起こさせない、地域の子どもたちや家庭を応援する働きがもっとも必要です。大切なのは地域に顔の見える誰かがいるという事なのかもしれません。

### 地域のおじさんやおばさん

地域の顔の見える誰かとは、資格の有無ではなく、子どもの面倒をみるのが好きなおせっかいなおじさんおばさんだと思います。学習や家庭福祉などの専門的なスキルを持っている方々と一緒に連携し地域力を深め、地域の子育てに率先して手を貸しコミュニティーを作ることが必要なのです。

### 地域のコミュニティー

子どもを中心にしたコミュニティーは、子どもが歩いて行動できる範囲内です。
「子どもの居場所」づくりや、「子ども食堂」「寄り道カフェ」など、子どもと家庭を応援するためには、行政や様々な機関、団体そして地域のおじさんおばさんが、必要なサービスとつながり連携し、地域の公民館や団地の集会、福祉施設、様々な団体施設の空きスペースを活用して、地域で子どもたちを見守り育てる新しいコミュニティーを創造しなければなりません。

### すべての子どもが安心して遊び、学び、食べることができるコミュニティー

誰かと一緒に遊び、勉強し、食事をする…親を心配させないように頑張る子どもから、本来の無邪気な子どもの姿にもどれる、安心できる居場所が提供できたらと思っています。
「食べる」ことを基本に、健康で豊かな人間性を育み、「勉強したい」と前向きに成長できる環境を整え、「遊び」から仲間との絆や、社会を学ぶ基礎になるように、自信が持てる子どもたちになるように、地域で「子ども食堂」のようなあったかい場所があったら、ゆっくりではあっても貧困の連鎖の鎖を断ち切る手助けになれたらと思っております。

『「食育」とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることである。』（ウィキペディアより）

生活協同組合コープふくしま
食育インストラクター
フードバンク
穂積　典子

# 学習支援のこれから～福島県子どもの学習支援事業～

福島県内でも貧困家庭の子どもたちの支援は確実に広がりを見せていますが、まだ十分だという段階には至っていません。当法人としても、貧困家庭の子どもたちの支援がより充実していくためにはどうしたら良いかを現在の取組を実践しながら模索しています。その中で今年度より福島県から委託を受け、「福島県子どもの学習支援事業」が開始されました。この事業は、町村部に居住する生活困窮者の世帯や生活保護を受給している世帯の子どもたち（中学1年生以降高校3年生以下）を対象として、貧困の連鎖やその解消のために家庭訪問による支援を実施するものです。支援の内容としましては、主に高校進学等に向けた成績向上の為の学習支援、高校中退防止に関わる相談支援、高校中退者や高校未進学者に対する進学や就労に向けた支援等を実施していきます。この事業は福島県内全域で開始されていますが、当法人では県北、相双、県中地区を担当しております。事業実施に際して、新たに職員を増員して子どもたちの支援に取り組んでいきます。新事業の位置づけとはなりますが、2012年からこれまでに蓄積されたノウハウを活かして子どもたちの可能性を少しでも広げていけるように、取り組んでまいりたいと思います。

**【お問い合わせ先】　県北・相双地域：080-9413-5241（担当者直通）　県中地域：090-2973-5841（担当者直通）**